

# NEWS COPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

## SOHO市場向け機器続々登場 衛星利用のコンテンツ配信が見えてきた NETWORLD+INTEROP'97 TOKYO レポート

日本での開催が4回目となった今年の「NETWORLD+INTEROP'97」が、幕張メッセで開催された。インターネットの明日を占うこのイベントは、昨年を上回る来場者で今年も大盛況だった。

編集部

6月3日から6日までの4日間、「NETWORLD+INTEROP'97 TOKYO (以下N+1)」(主催:ネットワーク協議会/ソフトバンクフォーラム株)が、幕張メッセで開催された(展示会は4日から6日までの3日間)。インターネットの普及、増加した利用者数に合わせるように、会場はメッセの全ホールを使用し、3日間の来場者数も9万820

人を数えるに至った(ちなみに一昨年はおよそ7万2000人、昨年は8万2000人)。

### 基調講演でも一番人気だった マーク・アンドリーセン氏

基調講演はどれも多くの入場者を集めていたが、特に今業界で最も注目されている

人物の1人である米ネットスケープ社上級副社長のマーク・アンドリーセン氏の基調講演は、初来日ということもあり、会場前から長蛇の列ができていた。

アンドリーセン氏は、今年3月に発表された白書「THE NETWORKED ENTERPRISE: ネットスケープの企業に関する

ビジョンとロードマップ」の内容を中心に、今後のネットスケープの方針を説明していった。

その中で、今後開発するアプリケーションをHTMLやJavaスクリプトで記述し、プラットフォームを選ばない「クロスウェア」の形で提供すると強調。製品のターゲットを企業向けにシフトしていると語った。

なお「6月11日~13日に米国サンノゼで開催される開発者会議に合わせて、ネットスケープコミュニケーター4.0英語版を正式に出荷し(6月11日に正式リリース済み)、日本やドイツなどの各国語版については、英語版のリリース後数週間後にリリースする」とし、「開発スピードが上がっている」とのことだった。

米RSA Data Security社社長兼CEOのジェームズ・ビノス氏の基調講演では、暗号技術と会社のビジネス展開について語られた。今後のインターネットビジネスでは暗号化技術が必要不可欠であるとしたうえで、同社ではSSL(ウェブサイトでの会員認証など)SET(電子商取引など、S/MIME(電子メール)など対応した暗号化技術を取り入れたアプリケーションソフトの開発に取り組んでいると語った。

サン・マイクロシステムズ社主席科学者のジョン・ゲイジ氏の基調講演、マイクロソフト社副社長のリチャード・タン氏の基調講



3日間で9万人もの来場者を集めたN+1'97



人気を集めたSOHOゾーンのステージ

演は、「N+1ならでは」という新情報はなく、それぞれが自社のソフトウェア製品や技術の優位性を語るという最近のお決まりのパターンだった。

### SOHO向け商品が出始めた

インターネット利用者が年々増加しているというのに、今年の展示会では個人ユーザー向けのハードウェアもソフトウェアも、驚くほど目新しいものは見当たらなかった。といっても新商品がなかったわけではない。高性能、低価格のターミナルアダプターや（規格は統一されていないものの）高速な56Kモデムなどが、各ブースで人気を集めていたのだが、どれも従来製品のバージョンアップという感じで、インパクトに乏しかったということだ。

そんななか、そろそろSOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）向け商品が現れ、来場者の注目を集めていた。NTT-TEのMN128-SOHOや富士通のNetViecleなどのダイヤルアップルーターや小型で低価格の



規格統一が持たれるUSロボティクスの56Kモデム



モバイルも新アイテム、三菱電機のPHS無線カード



最先端技術のひとつであるIPv6の実験展示が間近に見られる

ハブ、低出力のPHSを用いた簡易型無線LANなどの商品がそれだ。これは、近い将来、アメリカのように大きな市場として成長する前兆なのだろうか。

### 衛星によるマルチメディア放送が実現する

最新技術のデモンストレーションといいつつも一番実現が近そうだと感じたのは、マルチメディア衛星を利用した通信システムだ。これを利用したマルチキャスト配信のデモを行っていたのはNTTアドバンステクノロジー。30Mbpsという帯域を生かし、さらにデジタル多チャンネル放送技術を使えば、クライアントごとに異なったコンテンツを配信することができる。また、衛星ならクライアントが増えても送信コストは大きく変わらないし、逆にクライアントが増えることによって1クライアントあたりのコンテンツ利用料は安くなるのである。NTTアドではビデオ・オン・デマンドなどがグッと現実的になると言っていた。

すでに、98年4月には衛星利用のデータ通信サービスを開始すると発表しているBEKKOAME/INTERNETは、ブースに多くのパラボラアンテナを立ててアピールしていた。こちらはまだビデオ・オン・デマンドなどについては触れていないが、一斉配信が可能なサテライト・パブリッシングや通信教育

に利用することも考えられる、としている。また、従来のデータ通信サービスの「下り線」を衛星から送るともいう。もちろん専用の受信システムが必要ではあるが、利用者にとってはこちらのほうが現実的であり、運用開始を待ち望む声も多かった。

### ECの実現に期待

今回のN+1では、地味ながら大小さまざまなブースでセキュリティと認証システムを展示していたのだが、世界各国の金融機関、カード会社が運用実験に入りつつあり、実用化、時期が期待されているEC（エレクトロニックコマース）関連の大規模な実験や展示が行われていなかったのが残念でならない。しかし、ご存じのようにコンピュータの世界、とりわけインターネットの世界の進歩は速い。来年のN+1では、実用的なセキュリティ、認証技術とソフトウェアを基礎としたECの実験、ではなく現実のモールなどのデモンストレーションが展示されることを期待したい。



人気のPIAFS用PHSに対応したコーラスコンピュータのTA。新型TAはほとんどがPIAFS対応となっていた

## 世界初！リアルビデオ放送のインフラを提供する株式会社ジェイストリーム設立

㈱ジェイストリーム副社長 古株均氏に聞く

6月18日、KDDホールにおいて、KDD、NTT PCコミュニケーションズ、米プログレッシブネットワークス社、トランス・コスモスが出資する株式会社ジェイストリームの設立が発表された。同社は数万ストリームのリアルビデオ放送が可能なインフラを提供することだ。取締役副社長、古株均氏にこれからの展望を聞いた。編集部



㈱ジェイストリーム副社長 古株均氏

Q：ジャパンストリーム株式会社が提供しようとするものはなんですか。

古株：リアルビデオを使ったインターネットの放送局にインフラを提供します。通常、リアルビデオの放送局は、スタジオを所有してコンテンツを制作し、これをエンコードしてサーバーから配信します。この行程のなかの送信機とアンテナの部分を受け持つと考えてください。バックグラウンドとして、出資企業にNTTとKDDが加わっていますから、プロバイダー間を結んでいる回線の多くを使えます。具体的には、スプリッターを置いて、それぞれの放送局から送られたストリーミングを一気に流すというサービスになります。



Q：規模はどのくらいになりますか。

古株：スタート時点では、5000ストリームを同時に流せるキャパシティーを持つ予定です。これ以降は、半年以内に10000ストリーム、2から3年以内に10数万ストリームを目標にしています。



Q：このシステムを運用する上での課題はなんですか。

古株：私どものサーバーから送られたストリームがすべてのユーザーに届くかどうかは、どれだけ多くのプロバイダーがスプリッターを置いてくれるかということにかかっています。出資企業であるNTT PCコミュニケーションズの「InfoSphere」に直接つなが

っている「MSN」や「So-net」などでは、スムーズに実現できるはずですが。現在、さらに多くの大手プロバイダーの方々に協力をお願いしている最中です。



Q：そうすると、ジェイストリームの流すストリームが届くかどうかでプロバイダーを選ぶという時代が来るかもしれませんね。

古株：そうですね。このプロバイダーならこのビデオコンテンツが高画質で見られるといったことが、ユーザーにとって大きなポイントになるはずですが。そして、そうなることが私どもの理想でもあります。



Q：日本でリアルビデオが普及するために、どんなコンテンツが必要だと思いますか。

古株：テレビでは見られないコンテンツを流すことが重要です。タレントのファンクラブの会員しか見られないような希少価値のある番組だとか、企業向けには記者発表や製品発表などのライブ放送などを考えています。もう一つは、これから情報のパーソナライズ化が進むと予想しています。ここでは、ユーザーが感情移入できる番組が求められるはずですが。「自分だけのチャンネル」というのがキーワードです。見る側がスイッチングをしてカメラを切り替えられるような番組がいいですね。たとえば、F1の中継で「シューマッハの車載カメラだけを見ていたい」と思えば、その映像だけをリクエストできる。こんな番組があれば、私

ら飛びつきますね。



Q：ターゲットはどんな層ですか。

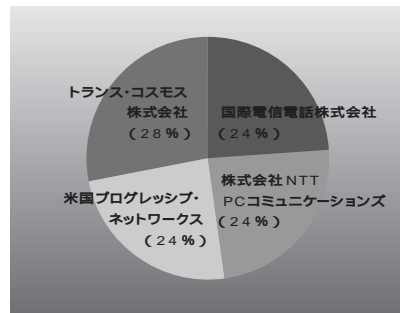
古株：まずは、企業での利用です。社内のマニュアルや技術者向けのチュートリアルなどをビデオ化することで、今よりも効率よくマスターできるはずですが。これが実現したあとは、ぜひ、個人に使うって欲しいと思います。結婚式のビデオを親戚に向けて放送したり、コンビニエンスストアに自分のビデオを持っていけば、これが放送されるといったサービスをしたいですね。



Q：古株さんが考える理想のインターネットとはどんなものですか。

古株：1つのスクリーンのような窓があって、その裏側はだれも意識していない、でも本当はそこにインターネットがあるんです。そして、この窓は、白雪姫の鏡のように自分の好きなものを写してくれる。これが理想です。

出資企業および出資率



## Product 米国のローミングサービス提供会社 AimQuest 日本のプロバイダーと提携してサービス開始

インターネットの国際・ローミングサービス「GRIC」とローミングを実現するための認証サーバーを提供する米国 AimQuest 社の、日本担当のゼネラルマネージャーである石井史彦氏がこの6月に来日した。日本ではまだなじみの薄いこのサービスについて、石井氏にお話をうかがった。

編集部

ローミングとは、簡単に言うと契約している通信会社のサービスエリア外でも、他の通信会社を使うことによって、契約会社エリア内と同様の通信サービスを受けられるようにすること。このためには、通信会社間で一定の方法でユーザー情報を交換する必要がある。これを実現するのが「GRIC」だ。

GRIC では、まず専用ソフトウェアをインストールする。このソフトウェアは Java で作られており、ウィンドウズの「ダイヤルアップネットワーク」と連動している。また、各国で利用できるアクセスポイントの電話番号があらかじめ設定されており、

利用者はその電話番号を選ぶだけで、自国のプロバイダーから取得した ID とパスワードで海外のアクセスポイントに接続できる。接続すると、次に米国にある GRIC のサーバーにアクセスする。ここでローミング契約しているプロバイダーのアカウントかどうか調べられるわけだ。

今までは、大手プロバイダーが独自に海外のプロバイダーと提携するケースが多かった。だが、GRIC なら導入コストが安いので中小のプロバイダーでも導入できるため、こういったプロバイダーのユーザーでも海外出張用に新たに他のプロバイダーと契約するような必要はなくなるわけだ。現在、

国内では Butaman インターネットや KCOM、DTI などが、GRIC によるローミングサービスを予定している。

来日した石井マネージャーは「米国の他のローミングサービスは、認証する際の通信回線は日米間で独自のプロトコルを使っており、帯域も少ない。GRIC の場合、TCP/IP を使っており、インターネットのバックボーンを利用するのでスムーズにつながる。大規模なプロバイダーから地域プロバイダーまで幅広く利用してもらいたい」と語った。



AimQuest の日本担当ゼネラルマネージャー石井史彦氏

## Technology NTT が ADSL モデムの 国内利用試験の経過を発表

NTT は ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line) モデムを国内の公衆回線網で使う場合の利用試験経過を発表した。ADSL モデムは公衆回線網で使われているメタルケーブルに高周波を流して数 Mbps のデータ通信を実現するというもの。ただし、電話局の交換機を通しての通信はできないので、利用者側とその回線を収容している局舎内に 1 対の ADSL モデムを設置し、局側からはコンピュータネットワークに接続することになる。

メタルケーブル網は 3.4kHz 程度の音声帯域を想定して敷設されている。そこに 100 MHz 程度の高周波を流すことになるので、一般の通話や ISDN 回線との影響を調査し、ADSL モデム自体の性能がどの程度出るのが検証することがこの試験の目的だ。

NTT によると、日本ではアナログ網の設計や工事基準や ISDN の方式が米国とは異なるので、米国で設計された ADSL モデムは日本の回線網では設計どおりに作動しないということだ。

日本ではメタルケーブルの束が米国で使われているものよりも密度が高い、ISDN の使っている帯域が米国と違い ADSL モデムの使う帯域とぶつかっている、

メタルケーブルの接合部分は手でひねるだけで接続されている、ケーブル被覆が 70 年代まで紙を使っているなど諸々の理由から、音声帯域では問題なくても高周波では不具合を生じるというのである。

また、日本の都市部では、すでに光ファイバー化が推進されており、引き込み部分へはメタルケーブルを使っている、電話

局舎までの間の一部が光ファイバーになっている場合もある。局舎までの間に一部でも光ファイバーが使われていると ADSL モデムは作動しない、2010 年までにはすべてを光ファイバー化するというのが NTT の方針だが、ここ 2 年～3 年のうちに都市部では光ファイバー化が大きく進むといわれている。こうしたことを総合的に考えると、ADSL モデムの技術は光ファイバー化までの非常に短期的なものだと考えられる。しかもサービスを受けられる地域もかなり限定されることになる。さらに、現時点では ADSL モデムの規格自体がまだ決まっていない、NTT では、利用者のニーズによって、ADSL モデムをアクセスラインとするデータ通信サービスを開始するかどうかを検討するとしている。

なお、この実験の詳細な結果と、ADSL の今後の動向については、次号で詳しく扱う予定である。

## Commerce インターネット用の 小額決済システム BitCashが運用開始

ビットキャッシュ㈱は、6月6日より、プリペイドカード方式のインターネット小額決済システム「ビットキャッシュ」を開始した。「ビットキャッシュカード」に表記された文字列をWeb上で入力することによって、コンテンツを閲覧したり、入手したりできる。専用のソフトウェアや会員登録は不要で、同社は運用と同時に全国の書店など約100店舗にて販売を開始した。1,000クレジットのカードが1,000円。2,000クレジットのカードが2,000円。ビットキャッシュに対応したTokyo Decadence(<http://www.-decadence.com/>)では作家の村上龍氏の最新小説を読むことができる。

問い合わせ ビットキャッシュ㈱  
TEL 03-5285-1860

✉ [info@BitCash.co.jp](mailto:info@BitCash.co.jp)

URL <http://www.BitCash.co.jp/>

## Product Navioブラウザ搭載の インターネットテレビ 「インタ楽tv」発売

NECホームエレクトロニクスはインターネットが使えるテレビ「C-28ZH1（インタ楽tv）」を発売した。インタ楽tvはナビオ社のブラウザ「Navio」、ハードディスク1Gバイトを搭載し、おすすめサイトを毎日決められた時間に自動的にダウンロードする機能や電子メール、IBM-PC用のキーボードをつないでの入力もできる。価格は298,000円。



問い合わせ NEC  
ホームエレクトロニクス  
TEL03-3454-5111

「インタ楽tv」の画面サイズは28インチ

## Service インターネット接続 商用サービス開始に向け テレウェイが認可申請

テレウェイ(日本高速通信)は、インターネット接続サービス「テレウェイ シリウス」の商用サービス提供について、郵政大臣に認可申請を行った。新サービスには、利用者とテレウェイのバックボーンを専用線で接続するサービス「シリウス」と、OCNのアクセスラインで接続する「シリウス<sup>2</sup>」の2タイプの専用線サービスがあり、「シリウス」などのダイヤルアップ接続サービスも提供する。サービス価格は「シリウス」64(64Kbps)で月額74,000円、「<sup>2</sup>-128(128Kbps)」で124,000円。「<sup>2</sup>-128」は26,000円にOCNアクセスラインの料金が必要。このほかにも各種高速サービスも用意し、7月1日からのサービス開始を目指す。

問い合わせ 日本高速通信㈱シリウス・インフォメーションセンター TEL 03-5821-8405

URL <http://www.teleway.or.jp/>

## Product 列車の座席予約ができる 「サイバーステーション」 JRシステムがサービス開始

JRグループの鉄道情報システム㈱は、新幹線や特急列車の座席予約、空席案内などができるパソコン通信「サイバーステーション」のサービスを開始した。GUI対応の専用通信ソフト「CYBER EXPRESS」を使用し、希望する日時空席状況を見ながら座席の予約ができ、新幹線の運転状況もリアルタイムで確認できるので、出迎え、見送りなどにも利用可能。このほか、桜の開花、スキー場の積雪など季節情報や、交通情報、観光ニュースも提供する。また、市販WWWブラウザによりネットサーフィンもできる。利用料金は月額500円(2時間まで)から。

問い合わせ 鉄道情報システム㈱  
サイバーステーション事務局  
TEL 0120-318-816

URL <http://www.cyberstation.ne.jp/>

## Product 日本語版「ウィンドウズCE」搭載PDA カシオとNECが相次いで発売

マイクロソフトの携帯情報端末用オペレーティングシステム「ウィンドウズCE」の使える携帯情報端末が日本のメーカー2社から発売された。カシオ計算機は米国で先行発売されている「カシオペア」を日本語版にしたもの。重さ370グラムの小型計量ポディーながら、106キーボード、IrDA、内蔵マイク、スピーカー、タイプ2のPCカードスロット1つ、コンパクトフラッシュカードスロット1つを搭載する。単3アルカリ電池2本またはリチウムイオン充電電池で動作する。

もう1つはNECから発売された「モバイルギアMC-CS11」。重さは400グラムで106キーボード、IrDA、タイプ2のカードスロット1つを搭載している。14400bpsのモデムを内蔵する。

2製品はいずれもウィンドウズ95に似た操作性で、WWWブラウザ「Pocket Internet Explorer」と電子メールソフト、ワープロ「Pocket Word」、表計算ソフト「Pocket Excel」、マイクロソフト・アウトLOOKとデータがやりとりができるスケジューラーが使える。

問い合わせ カシオ計算機㈱  
TEL 03-3347-4811  
日本電気㈱ TEL03-3798-2088



モデムを内蔵したNECのモバイルギア

**Product** A5サイズの携帯情報ツール  
「インタートップ」  
富士通が発売

富士通は、タッチパネル付き7.2型VGAカラー液晶ディスプレイ搭載の携帯情報ツール「インタートップ」を発売した。A5判サイズ、750グラムのコンパクトボディながらフルキーボードを搭載して、キーボード入力による操作性を重視したのが特徴。33.6Kbpsの高速FAXモデムを内蔵し、WWWブラウザや電子メール、FAX機能も搭載している。価格は128,000円。

問い合わせ 富士通(FM)インフォメーションズ  
TEL 0120-89-4321



ディスプレイが360度反転する「インタートップ」

**Service** インターネットで  
暑中見舞いを送る  
「G-CARD」サービス開始

NTTグループは、インターネットを通じてカードを送ることができる「G-CARD」の暑中見舞いバージョンを開始した。ホームページへアクセスしてビジュアルとサウンドを選択し、メッセージを入力するだけで簡単にカードが作成でき、相手にはカードのURLがメールで通知されるもの。利用は無料で、利用者には抽選で沖縄旅行などのプレゼントも当たる。

問い合わせ (株)NTTアド マルチメディア推進局  
TEL 03-5421-1901  
URL <http://g-card.ntt-ad.co.jp/>



「G-CARD」のホームページ

**Service** 日本百貨店協会が  
お中元商戦に向け  
ギフトモールを開設

日本百貨店協会は、6月16日から8月15日までの間「お中元ギフトモール」を開設する。北海道から鹿児島までの55の百貨店が出店し、参加したすべての百貨店の商品が一度に検索できるようになっているため、百貨店ごとのページにアクセスする必要がない。日本百貨店協会では、昨年もお中元時期にショッピングモールを開設したが、ユーザーからの要望に応え、各百貨店の出品枠の上限を30点に拡大することによって、取り扱い商品数を約1,000点にまで増やした。決済方法は、注文した後にカード番号を電話か電話かファックスでユーザーに問い合わせるといったクレジットカード決済を採用している。今後、電子決済の導入なども検討している。

URL <http://www.depart.or.jp/>

**Product** 液晶パネルとUSBを搭載  
したAtermシリーズの最新  
TAをNECが発売

NECは6月23日から、ターミナルアダプターのAtermIT65ProとAtermIT65Pro DSUを発売する。新製品は液晶パネルを装備し、通信状態や設定内容、発信者番号などの確認ができる。また、電話機からアナログポートの設定ができ、USBポートも搭載した。さらに、停電時にはニッカド充電電池が使えるようになった。価格はIT



電話機からアナログポートの設定ができる

65Proが42,800円、DSU付きのIT65Pro DSUが55,800円。

問い合わせ NEC  
インフォメーションセンター TEL  
0120-361138

**Product** 「x2」テクノロジー採用の  
5.6K FAX モデム  
ソニーから発売

ソニーは、56Kbpsの高速通信が行えるx2規格準拠のFAXモデム「SMD-560シリーズ」を発売した。パソコン通信ソフト、FAX通信ソフト、WWWブラウザなどが標準添付されているのが特徴で、価格はベーシックモデルの「SMD-560BM/BW」が19,800円。英日翻訳ソフト、ホームページ作成ソフトなどインターネットソフトを充実させた「SMD-560IM/IW」が24,800円。

問い合わせ ソニーマーケティング㈱お客様ご相談センター TEL 03-5448-3311

URL <http://www.sony.co.jp/ProductsPark/>



USロバティクス社が提唱する規格「x2」を採用

**Software** 快適なネットサーフィンを実現するソフト  
住友金属が発売

住友金属工業は、ネットサーフィンの待ち時間を短縮できるユーティリティソフト「インターネットアクセラレータ」日本語版を発売した。このソフトは米国IMSI社が開発したもので、Webページ上にあるリンク先を常に先読みし、モデムや回線の使用率をアップして待ち時間の短縮を可能としている。通常のネットサーフィンではモデムや回線が使用されていない時間があるが、この無駄な時間を節約することでブラウジングのスピードを高速化し、快適なネットサーフィンを可能とするもの。「マイクロソフト・インターネットエクスプローラ」と「ネットスケープ・ナビゲーター」に対応し、価格は5,800円。

問い合わせ 住友金属工業(株)サポートセンター  
TEL 03-5476-9825

### Business WWWをページ単位で課金 「PayPerClick System」 日本IBMが開発

日本アイ・ピー・エムの東京基礎研究所は、WWWコンテンツをページ単位で課金するシステム「Pay Per Click System」を開発した。プリペイド方式で課金するシステムで、コンテンツ提供者のサーバーとユーザーの端末の間に、課金のためのカウンティングサーバーを設置したのが特徴。ユーザーは、あらかじめサーバーの運営者からプリペイド型の仮想有料サイト利用券を購入し、有料コンテンツのサイトからページ単位で情報を引き出す。するとサーバーで情報が引き落とされ、コンテンツ提供者に移送して課金する仕組みだ。暗号化プロトコルを使用していないので、ファイアウォール内のイントラネットからも利用できる。

問い合わせ 日本アイ・ピー・エム㈱ダイヤルIBM  
TEL 0120-04-1902

### Service ニフティマネジャーで インターネットから ニフティサーブに接続可能

ニフティは6月18日より、インターネット経由で「ニフティサーブ」への接続サポートを開始する。「ニフティマネジャー」の新バージョンによって、社内LANやイントラネットからでもインターネット経由でニフティサーブに接続できるようになり、プロバイダーに接続した状態からでもニフティサーブを利用できる。また、MIMEエンコードにも対応し、テキスト以外のバイナリデータを簡単に電子メールに添付することもできるようになった。



「NIFTY MANAGER for Windows95 Version 4.00」

### Software S/MIMEを採用した セキュア電子メール 「魔法便」を開発

NTTエレクトロニクステクノロジーは、日本RSAから暗号ソフトのライセンスを取得して、インターネット上でマルチメディア情報を安全にやり取りすることができるセキュア電子メール「魔法便」を開発、受注を開始した。電子メール用暗号プロトコルの世界標準「S/MIME」を採用しており、既存の電子メールソフトにアドオンすることで安全なメール通信を実現している。また、セキュア電子メールの通信に必要な認証証明書「デジタルID」の発行サービスは日本ベリサインが行う。パッケージ価格は15,200円で、日本ベリサインの1年間の利用料も含まれている。

問い合わせ NTTエレクトロニクス  
テクノロジー(株)セキュリティ事業推進部  
TEL 03-5485-5611

### Event プロ野球オールスターゲーム インターネットで速報 電子メールも利用

大日本印刷は7月19日に開催されるジュニアオールスター戦と、7月23日、24日に開催されるオールスター戦の2試合の様を、インターネットでリアルタイムに速報する。このイベントは、ホームページやヘルパーアプリケーション、電子メールを立体的に使用して野球中継をインターネットですするというもの。内容は、2分から5分ごとにホームページに表示されたスコアボードに得点内容を速報するスコアボード・サービスと、テレテキストを使って攻撃時の主なプレイを配信し、パソコンの画面上に常に最新の試合経過を表示させるといったもの。また、あらかじめ登録したユーザーに、試合終了後に詳細な試合結果情報を電子メールで配信するという。

URL <http://fans.dti.ne.jp/allstar/>

### Service 「NIKKEI NET」に 個別銘柄の株価情報ページ 日本経済新聞社が新設

個別銘柄の株価情報を検索できる「株価サーチ」のページが、日本経済新聞社のホームページ「NIKKEI NET」に新設された。対象は上場、店頭公開企業約3000社で、毎夕、取引終了後に当日の終値ベースの情報を提供する。検索は企業名、会社コード、業種によって行え、その日の値上がり率、値下がり率、売買高の大きい企業のランキングも見られる。

URL <http://www.nikkei.co.jp/>



会社名、株価コードで株価を検索できる

### Software 電子ダイレクトメールソフト 「白やぎさん」 アイナックが発売

アイナックは、ウィンドウズ95環境で電子メールの同報通信を可能とするメールソフト「白やぎさん」を発売した。従来の同報通信システムはUNIXやウィンドウズNTサーバーを必要としたが、このソフトを使用すれば低コストで電子ダイレクトメールの利用が可能となる。価格は7,800円で、ホームページ上でオンライン販売するが、評価版は無料ダウンロードできる。

URL <http://www.inac.co.jp/shiroyagi/>



送信先の設定画面

Service

### 地図情報を 電話通信と融合 富士通研究所が試作

富士通研究所は、インターネットを通じて配信される地図上の店や人のアイコンをクリックすることにより、インターネットフォンを経由して通話できるシステムの試作に成功した。また、モバイル通信の場合にはユーザーの位置に応じて、その周辺の地図を自動的に表示することもできる。今後、富士通が提供する地図ベースの情報提供サービス「ワイルドバード」に早期に適用していく予定。

問い合わせ ㈱富士通ネットメディア研究センター TEL 044-754-2667



アイコンをクリックすると詳細情報を表示する

Product

### 56K対応モデムカード 31,800円で 日本モトローラが発売

日本モトローラは、ロックウェル社が提唱するK56Flex準拠の56Kbps ISA モデムカード「ModemSURFR 56K ISA」を発売した。デスクトップパソコンのISAバスに取り付けるため場所を取らず、電源もパソコンから供給されるため余分なコンセントも不要。価格は31,800円でプロバイダー「InfoSphere」の無料体験CD-ROMが添付されている。

問い合わせ 日本モトローラ㈱情報システム事業部営業部 TEL03-5487-8540  
URL <http://www.mot.co.jp/html/products/ms.html>



K56Flex準拠の「ModemSURFR 56K ISA」

Service

### ソフトバンクが9月から コンピュータ情報誌を インターネット上で創刊

ソフトバンクは米国ジフ・デバイス社と共同で、インターネット上のコンピュータ専門誌「ZDNet Japan (ジーディーネット・ジャパン)」を9月1日に創刊する。日本語版では「PC Magazine Online」などの英語版コンテンツの日本語サービスを提供する。また、株式会社ベクターと提携してソフトウェアのダウンロードサービス情報や、漫画家寺沢武一氏によるオンラインコミック、オリジナルゲームやハイスコアコンテストを実施するゲームコーナーなどのコンテンツの提供も計画している。なお、「ZDNet Japan」はパナー広告による広告収入で運営し、利用者からは情報料を徴収しない。

問い合わせ ソフトバンク㈱広報部  
TEL 03-5642-8013

Product

### テレビに接続できる DVD搭載のホームパソコン 東芝が発売

東芝は、家庭用のテレビに接続できるウィンドウズ95搭載のホーム用パソコン「Vision Connect」を発売した。家庭内で自由に持ち運べ、いつでも簡単にテレビに接続できるコンパクトな設計が特徴。ペンティアム133MHz、32Mバイトの内蔵メモリ、1.5Gバイトのハードディスクを搭載し、33.6KbpsのFAXモデムによってインターネット接続ができる。

問い合わせ ㈱東芝 ダイヤル3100  
TEL 03-3252-3100

URL <http://www2.toshiba.co.jp/pc/>



DVD-ROMドライブで映画なども楽しめる

Service

### メールアドレスの電話帳 「dddd(ヨンデ)サービス」 登録・利用は無料

フォーディーコミュニケーションズはホームページ上で、電子メールアドレスの電話帳サービスを開始した。新サービスの名称は「dddd(ヨンデ)サービス」で、登録された名前、アドレス、性別、居住地などの情報を、利用者が検索することができる。登録料・利用料は無料で、パナー広告による収入で運営する。

問い合わせ ㈱フォーディーコミュニケーションズ  
TEL 03-5414-7845

URL <http://www.dddd.ne.jp/>



名前以外の登録項目は非表示にすることもできる

Service

### ドリーム・アーツが デジタル画像とCGで 動画コンテンツを制作

ドリーム・アーツはCD-ROM制作会社3社と共同で、デジタル画像とCGキャラクターでShockwaveなどの動画コンテンツ制作サービス「デジタル・アニメーション・ショップ」を7月18日から開始する。これまでもデジタル画像にデザイン処理を施してTシャツなどを制作するサービスを提供してきたが、今後はこれと併せてホームページにも使える動画コンテンツの制作も行う。

問い合わせ ㈱ドリーム・アーツ TEL 03-5412-0481(担当:上田)

URL <http://www.dreamarts.co.jp/>



ドリーム・アーツのホームページ



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)